

「山と温泉の幸せな物語」を実現していくチャレンジメディア

山と温泉 [奈良・天川]

第0号／創刊準備号 | 2017年4月1日発行 | たぶん月刊

発行者：谷 茂則（谷林業株式会社）

編集・執筆サポート：二階堂 薫

■お問い合わせは・

谷林業株式会社 「山と温泉」編集部

〒636-0012 奈良県北葛城郡王寺町本町 2-16-36

Tel : 0745-72-2036

Mail : tanisige@silver.ocn.ne.jp

<http://yamatoonsen.com/>

Facebook 「山と温泉」で検索！

「山と温泉」の取り組みや薪ボイラーに関するお問い合わせ、コラボや取材、講演等のお申し込み、ご意見・ご感想はお気軽に。

はじめまして！平成29年4月1日より「天の川温泉センター」と「天川薬湯センター みずはの湯」の管理を任せていただくことになりました「山と温泉共同事業体」代表企業、谷林業株式会社の谷茂則です。えっ、林業の会社が温泉運営！？と不思議に思う方がおられるかもしれません。1年前の今ごろは、こんな日が来るなんて想像もしていませんでした。ではなぜ、林業会社が温泉運営にチャレンジするのか？

実は、天川村と谷林業の間には100年以上の歴史があります。古い台帳をめくると、江戸時代末期の嘉永年間（1848～1854年）に天川村の山林を購入した記録があり、以来170年近い時を共に歩んできたわけです。明治時代には、私の曾祖父が天川村のみたらい溪谷の奥地で植林を行い、大正～昭和～平成に至るまで、天川村のみなさまとは切っても切れない関係を重ねてきました。特に私が生まれた昭和50年代は林業も木材産業も好況で、天川村の主産業でした。辺りを包む空気には幸せな雰囲気満ちており、天川村の山守や林業関係の方々も毎年のように訪ねてくださって、子どもながらに楽しみに待っていたものです。

けれど平成7年の阪神・淡路大震災、平成10年の台風7号、平成23年の台風12号がもたらした紀伊半島大水害で甚大な被害を受け、林業も天川村も大きな痛手を負いました。平成23年の台風は土砂災害を引き起こし、とてつもない被害に見舞われました。

その後、林業が不況になるにつれ、天川村との絆は徐々に薄れていきました。お世話になった山守や林業関係の方々との関係も、年々遠くなっていきました。林業の不況により、所有していた山林の管理がおろそかになることその他、住人が減少していく天川村の未来についても気がかりで仕方ありませんでした。個人としても谷林業としても、かつてお世話になった方々の力になり、少しでも恩返しをしながら、林業や天川村の再興に貢献する道はないのだろうか…と模索し続けていたのです。

そんな中、昨年の秋ごろに「天川村が温浴施設に薪ボイラーを導入する」らしいと耳にしました。薪ボイラーの導入で地域の林業関係者の売り先が生まれ、地域の林業が少しうるおうという話を聞きました。薪ボイラーを導入できれば林業再興のきっかけになるため、薪の供給など林業サイドから協力したいという思いがふくらみました。それからほどなくして、天川村の温浴施設の指定管理者募集の情報が舞い込みました。さらに、今回の共同事業体の一員である「株式会社 ALU」飯田尚呉さんより、一緒に指定管理者に応募しないかとお誘いを受けたのです。各地の薪ボイラー導入事例を見てみると、導入施設運営者と薪の供給者との間で薪の価格をめぐる不調和が生まれ、運営がスムーズに行われていないケースが多く見られました。ならば、林業会社が指定管理者になることで解決できる！と思ったのです。

林業会社が温泉運営を行えば、薪ボイラーは単なるコストダウンのための道具ではなくなります。薪を山から持って出すという林業の雇用を生み出し、山を適正な状況に導けます。石油の使用で地域外に流出していた経済が、地域内で循環します。雇用が生まれれば管理がむずかしくなった地域の山の管理が進み、定住者が現れるかもしれません。山はきれいに管理され、景観も良くなって…薪ボイラーは「地域の打出の小槌」になるかもしれない！薪ボイラーの最適な利用を行い、林業を盛り上げたい。そうすれば、天川村から新たな温泉モデル、新しい林業モデル、新しい地域のあり方を創造していけるのではないかと考えました。

今回の温泉プロジェクトのために結成した共同事業体には、温浴施設管理の専門家で運営の合理化を図る「株式会社 ALU」、地域の文化や人を掘り起こし、外から来られる方々と村をつなぐ「Locpomp」、取り組みにデザインを取り入れて彩りを与える「株式会社青春」という力強い仲間がいます。私たち「山と温泉共同事業体」は、奈良の天川村から、山と温泉の幸福なモデルを創造していきたいと願っています。

このプロジェクトのテーマは、「山と温泉の幸せな物語」。温泉で身も心もぬくもって、露天風呂から見える、どこまでも続く山々を守り継いできた吉野の林業が重ねた 500 年という歳月、これからはじまる未来に夢をふくらませ、おだやかなひとときをおすごしください。みなさまと共に、幸せな未来の物語を紡いでいけるチャンスを授かったことに感謝しつつ…

平成 29 年 4 月 1 日

「山と温泉共同事業体」代表企業 谷林業株式会社
谷 茂則